日本地球化学会ニュース

No.82／83

1978．V．15

会告　1978年度日本地球化学会年会

主催　日本地球化学会

共催　日本化学会

開催日　昭和53年10月5日(木)～7日(土)

会　場　北海道大学水産学部(函館)

内　容　一般講演,特別セッションおよびシンポジウム

〔特別セッション〕

コンビーナーの方針と工夫により，とりあげたテーマにつきより深く討論し，より実りあるセッションとなるよう配慮されたもの，したがって形式は各セッション毎に異なるが，関連する従来の一般講演的なものも含まれるので講演を公募する。

テーマとコンビーナーおよび趣旨

1．堆積物と水溶液間の元素分配(北野　康)

単一鉱物あるいは堆積物中の鉱物と水溶液との間の元素分配の測定法，測定結果および測定結果の地球化学的論議などを含めこの課題のセッションを持ちたい。

2．環境有機物研究の現状と将来（石渡　良志）

環境における有機物研究は近年分析法の進歩と環境汚染の深刻化とともにさかんになってきた。しかし，多岐に渡る研究の位置や方向が見失なわれがちである。このセッションでは研究発表とともに研究の現状をレビューし将来の課題を浮彫りにしたい。

3．岩石―鉱物―水相互作用と水素同位体比(日下部実)水素同位体を通してみた地質現象に焦点を当てる。岩石―鉱物―水相互作用における水素同位体の挙動や分配からどのような知見が既存の知識に加えられ得るか，という点に重きを置いた研究発表を歓迎する。

4．河川水質の現象解析（市川　新）

河川における物質の挙動を解明するための，水質調査法，水質の再現性と代表値のとらえ方，水質の変動，河川内での物質収支，堆積と流出に関する平衡関係，シュミレーション手法によるモデル化などと地球化学的手法との関連について議論を深める。現実の問題から出発した議論を歓迎する。

5．大気圏・海洋における化学物質のフラックス

（半田　暢彦・角皆　静男）

地表物質の風化に始まり，海底堆積物として固定されるまでの間の物質の流れを海洋を中心にとらえる。各ステージにおけるフラックスの見積り，それを支配する因子，機構，それらの時間的変動（環境問題も入る）などを討論する。

6.新しい惑星化学を模索する（小沼　直樹）

「地球」という対象を時間的にも空間的にも一まわり大きく把握する見方を導入するために，一度「地球」をはなれ，銀河系から太陽系を見て，「地球」をクローズアップする。その新しい学問領域を開拓するには〝さしあたって〟および〝長期にわたって〟何をすればよいか考えてみる。

シンポジウム

地球化学の現状と将来(コンビーナー，松尾　禎士)

地球科学の一分野である地球化学には，再現性のある現象のほか，再現性のない本質的にうつろいやすい現象の追求が基本的に含まれる。2，3の例をとりあげて日本における研究の現状と将来の問題点をふかんする。一方，日本における地球化学振興のために本学会が担うべき方向を探ることを試みる。話題として(1)元素の分配則，(2)地震予知，(3)　実験室と自然界との間，(4)　関連領域からの注文と批判，(5)　日本における地球化学の位置　などを考えている。

講演申込締切　6月24日(土)

同封の別紙申込用紙により申込んで下さい（一般講演，特別セッションとも講演を希望される方は200字程度のアブストラクトをつけて下さい)。

講演要旨原稿締切　8月19日(土)

講演申込み受付け次第オフセット用原稿用紙をお送りします。原稿用紙1～2枚に黒インクで清書しお送り下さい。

学会事務所は下記へ移転致しました。
日本学会事務センター・日本地球化学会係
〒113　東京都文京区弥生2―4―16　学会センタービル(4階)電話　東京　03(815)1903

その他の日本地球化学会へのお問い合わせは下記へお願い致します。東京都立大学理学部化学科　石渡　良志
（庶務幹事）〒158　東京都世田谷区深沢2―1―1
電話　東京　03(717)0111

要旨集予約および参加申込締切　　9月9日(土)

予約金を当日までに郵便振替または銀行振込みでお支払い下さい。要旨集と参加証をお送り致します。参加費は不要です。

要旨集代

予約（上記）した場合　2,500円(郵送料含む)

予約されない場合　　3,000円(郵送料含む)

総　　会　　10月6日(金)

懇 親 会　　10月6日(金)18時ころより(会費2,500円)

会費は9月9日(土)までにお支払い下さい。

要旨集代・懇親会費送金方法　　(開期中できるだけ現金取扱いが避られるようご協力下さい)。

［郵便振替］

口座番号＝函館2219，加入者名＝1978年地化年会

〔銀行振込〕

北海道拓殖銀行函館支店

普通預金口座　番号583－606，1978年地化年会委員長　西村　雅吉

申込書・要旨原稿等送付先

〒041　函館市港町3丁目1番1号　北海道大学水産学部　1978年度日本地球化学会年会　実行委員長

西村　雅吉　(電話0138(41) 0131, 内線309, 310, 311)

評議員会報告

と　き：1977年6月11日，ところ：静岡日興会館

出席者：小穴進也会長，本田副会長，市川，岡部，北野，倉沢，猿橋，杉浦，杉村，田中，立川，寺田，鳥居，増田，三宅，山形各評議員

1．報　　告

(1)　ＪＳＣ，地球化学宇宙化学研連関係

5月10日～13日第2回元素の起源と分布シンポジウムがパリであり，本田会員が出席した。

World Directory of Isotope geochemists　1977（1ドル）が刊行された。

1978年3月15日～16日Environmental Geochemistryのシンポジウムが London で開催される。

1978年にインドでSolid State Geochemistry のシンポジウムが開催される。

1980年ＩＧＣ総会が開催される。

(2)　各委員会

庶務：1984年にＩＧＣ－ＩＵＧＳ総会を日本で開催する可能性についてＪＳＣの説明会に出席した。

1977年ＣＷＡＪ奨学生の募集要領を受領した。ＮＧＯ被爆の実態と後遺，被爆者の真相に関するシンポジウムは本会後援で7月31日～8月2日広島で行われる。会員名簿1977年版を編集している。

ニュース：80号は年会予告をのせて発行した。81号年会プログラムは8月上旬発行予定。

編　　集：Ｇ．Ｊ．Vol. 11, No. 2および地球化学は6月中に発行する予定。

財　　政：1978年度予算編成作業の実施。

行　　事：6月例会を6月11日東海大で開催，参加者60名。(演題）南極観測の20年の歩み―地球化学を中心として―　鳥居鉄也，隕石　本田雅健。

環　　境：5月24日,「環境の定量化と解析」　講演会を日化講堂で行なった。出席者80名。

将来計画：ＩＵＰＡＣは9月5日～10日東京で開催。39回日化ハワイ年会（1979年4月1日～6日）は日米合同で行なう予定。今年度の総研Ｂ（地球化学）は不採択になった。

年　　会：特別講演2件を決めた。

選　　挙：3月17日委員会をひらき，倉沢委員が委員長に選出された。9月26日メ切です、めている。

2．議　　事

(1)　石灰化機構第3回国際シンポジウム(1977／10）の協賛を承認した。

(2)　学会誌展示会への出品，モスクワ国際書籍展(ナウカ書店よりの依頼）および学会誌展示会（学会事務センターより依頼）へＧ．Ｊ．の出品を承認した。

(3)　入退会，入会8（正会員）退会6（正会員）を承認した。6月現在，正会員831，賛助18，名誉7，計856。

(4)　学会事務所移転について，具体案は副会長が世話役となり，次回に提出することとした。これに関連して，会則15条の改訂も次回検討することとした。

(5)　1978年度予算案，1977年度給与24万円追加支出を承認した。職員退職金については常識的ルールにしたがうことを前提に継続審議とした。

(6)　国際学会・シンポジウム関係，ＩＵＧＳ－ＩＧＣ1984年総会(日本)については地球化学宇宙化学研連で検討すること した。また,1982年Geochronology，Cosmochronology，Isotope Geology シンポジウムの日本開催について主催団体となるかどうかについては継続審議とした。

(7)　出版事業について，環境委より提案の「水汚染の機構と解析」出版計画を承認した。内容は河川，湖沼，海のケーススタディの編め，環境委編集として出版社に依頼する。

ニュース合本製作の企画をすゝめることを承認した。

(8)　ＧＪ外国へのＰＲ文書については慎重に取扱うようにとの要望があった。

(9)　G.J. 寄贈，「Current Contents」に　G.J.　3部を寄贈することを承認した。

1977年度日本地球化学会総会報告

10月21日11：30～12：30東京大学理学部化学教室新館5階講堂で会員約80名出席のもとに行なわれた。

1．　会長挨拶

2．　年会委員長挨拶

3．　1976年事業および決算報告，西村監事の監査結果の報告があり，これを承認した(別掲。)

4．　1977年度事業中間および収支中間報告が行われた。

5．　1978―79年度役員選挙結果を報告した。

6．　1978年事業計画および予算案を承認した。

7．　会則第6条,第15条の一部改訂を承認した(別掲。)

1976年度事業報告

1．　会員現況

	正会員	賛助会員	名誉会員	計
1975年12月末	792	17	1	810
入　　会	44	1	6	51
退　　会	11	0	0	11
名誉会員へ移動	6			6
1976年12月末	819	18	7	844

2．　委員会等開催数

総　会	1	財　政	3	ニュース	3
年　会	1	編　集	2	環　境	3
例　会	2	行　事	2	将来計画	2
評議員会	3（幹事会3）			会　則	2

3．　ニュース発行　76，77，78，79号計18頁1,000部

4．　会誌：G.J.，Vol. 9, No.4, Vol.10, No.1～3，222頁1,200部　地球化学　Vol. 10, No.1　63頁1,000部発行

5．　学協会主催

第13回理工学における同位元素利用研究発表会（1976／6）　第5回生命の起源シンポジウム（1977／4）　第26回国際純正応用化学連合会議（1977／9）　ＧＤＰ国際シンポジウム（1978／3）

6．　名誉会員の推薦

飯盛里安，石橋雅義，木村健二郎，南英一，菅原　健，太秦康光

7．　評議員会

1976年2月14日　本郷学士会館

6月12日　京都楽友会館

10月13日　名古屋王山会館

8．　例　　会

2月14日　湖沼学の勃興と発展―西村信吉著「湖沼学」復刻刊記念　西条八束，菅原健

ところ：東大・理・化学教室

6月12日　第四紀火山岩中の微量元素の挙動　西村　進

分析化学と地球化学　　藤永太一郎

ところ　京大・理・化学教室

1976年度決算報告書　(1975.1.1～12.31)

収　入	円	(予算千円)
前年度繰越金	2,439,885	
正会員費	3,630,299	3,200
賛助会員費	,260,000	300
購読料	1,809,991	1,600
刊行補助金	530,000	550
超過頁代・別刷代	964,435	1,350
銀行利息	62,657	50
広告代	0	50
雑収入	20,000	――
合　　計	9,717,267	7,100

支　出	円	(予算千円)	
基本運営費	19,000	50	
学術的会合費	150,000	150	
出版費	3,855,430	4 ,200	
発送通信費	553,230	600	
編集費	150,000	100	
名簿出版費	280,000	280	積立金
回収不能損	――	320	
通信費	184,000	200	
会議費	120,181	150	
人件費	600,000	600	
事務費	194,123	200	
銀行等手数料	82,055	50	
同位元素研究発表会	4,000	200	予備費
次期繰越金	3,525,248	―	
合　　計	9,717,267	7,100	

1978　事　業　計　画

1．　総　　会　1回　10月

年　　会　1回　10月6～8日(北大水産学部)

例　　会　2回　（2月，6月）

評議員会　3回　（2，6，10月）

講 演 会，各委員会

2．ニュース発行　3回

3．会誌：G.J. Vol.12，1～4　275頁 1,500部
　　地球化学　Vol.12　1～2　100頁 1,000部

4．学協会との共催等：第15回理工学における同位元素利用研究発表会(1978／6)，その他。

5．学会事務所移転

1978年予算（1978. 1.1～1978.12.31）

収　入	千円	支　出	千円
会費	5,460	事業費	9,809
刊行物売上	4,240	出版費	6,735
広告料収入	50	行事費	300
助成金	700	名簿印刷費積立	250
雑収入	50	事務委託費	1,128
前年度繰越金	2,200	会誌販売委託費*	1,396
総計	12,700	管理費　小計	1,100
		学会アルバイト費	300
		会議費	300
		通信費	50
		旅費交通費	300
		消耗品費	50
		雑費	100
		積立基金	500
		予備費	1,291
		総計	12,770

＊日本学会事務センターへの委託事務
会誌，ニュース，例会通知書の発送，会員外への会誌販売，会費の請求，徴収，バックナンバーの販売等

会則第6条，第15条の一部改訂

第6条　会員はつぎの種別に従って会費を前納しなければならない。

第16条　本会の事務所は東京都文京区弥生2－4－16(財)日本学会事務センター内におく。

日本地球化学会1978・1979年度役員選挙結果

53年9月30日㈶気象研究所地球化学部会議室で開票を行ない，下記の結果が得られた。

会　長　半谷高久　(次)本田雅健
副会長　北野　康　(次)本田雅健
監　事　鳥居鉄也　(次)杉浦吉雄
評議員　a b c順

北海道：	八木健三	中　部：	坂野昇平
(次)	角皆静男		半田　彦
東　北：	青木謙一郎		金森　悟
(次)	田口一雄		中井信之
関関　東：	安藤　厚		岡部史郎
	不破敬一郎	(次)	寺田喜久雄
	市川　新	近　畿：	増田彰正
	石渡良志	(次)	桑本　融
	木越邦彦	中国・四国：	立川　涼
	松尾禎士	(次)	松井義人
	長沢　宏	九　州：	樽谷俊和
	小嶋　稔	(次)	山口　勝
	佐藤和郎		
	柴田　賢		
	綿抜邦彦		
(次)池田長生			

1977年度　中　間　報　告

1．会員異動

	正会員	賛助会員	名誉会員	計
1976年12月末	819	18	7	844
入　会	52	0	0	
退　会	24, 除29, 逝去1		逝去 1	
1977年10月19日	817	18	6	841

2．委員会等開催数
総会1，年会1，評議員会3（2，6，10月）
幹事会3（1，5，9月），例会2（2，6月）

3．ニュース発行　80, 81号　計12頁　1,000部

4．会誌：G.J., Vol.10, №4, Vol.11, №1～3, 238頁，
　27論文，レター4　地球化学Vol.11，№1
　49頁3論文，2寄稿

5．1977年度名簿発行

6．1978・79年度役員選挙

7．学協会共催および後援
環境の定量化と解析講演会（1977／5）　第14回理工学における同位体元素利用研究発表会（1977／6）　無背椎動物および植物の石灰化機構に関する第3回国際研究集会(1977／10)　ＮＧＯ被爆の実態と後遺，被爆者の真相に関する国際シンポジウム（1977／7）　第21回国際理論応用陸水学会（1980／8）

評議員会報告

とき：1977年10月19日，ところ：東京学士会館本郷分館　出席者：小穴進也会長，本田副会長，市川，小嶋，岡部，鎌田，北野，倉沢，桑本，猿橋，杉浦，杉村，田中，立川，寺田，鳥居，増田，三宅，山形各評議員

1．報　告

(1) JSC,IAGC関係，IAGC評議員ツガリノフ（ソ連）逝去，研連から弔電を送った。IAGC評議員に久城育夫氏が選出されたので，地化宇化研連の委員に追加委嘱した。
　1978年8月デンバーでGeochronology,Cosmochronology,Isotope,Geologyのシンポジウムが開かれる予定。

(2) 各委員会
庶務，ニュース，編集，財政，環境，将来計画年会，選挙各委員会の報告があった。

2．議　事

(1) 入退会を承認した。1977年度総会報告参照。

(2) 1977年度総会次第を決め，総会に提出する。1976年度事業報告，1977年度中間報告，1978年事業計画案，1977年度会計中間報告の内容を承認した。
　なお1977年度会計において，学会事務所職員の退職金（8年勤務）36万円および本年11月12月の2ヶ月分の人件費の追加支出を承認した。

(3) 会則改訂，会則第6条の改訂案を総会に提案することとした。

(4) 12月例会，12月10日東大理化学教室で「琵琶湖掘削試料の古気候的研究」堀江正治，中井信之両氏に依頼した。

(5) 1978年度年会は10月5～7日北大水産学部(函館で）行なうことを決めた。年会委員長西村雅吉会員。

(6) 日本学会事務センターとの，会員事務および会誌販売業務委託契約の更新を承認した。

(7) 学協会との共催等，総会報告参照。

(8) 南英一名誉会員の御逝去（9／15）に伴い，生花弔辞を献呈した。またG.J.に写真および追悼文を掲載することを決めた(Vol.11，№4。)

(9) 図書等，寄贈依頼等，中国国際自然科学書展にG.J.の出品を承認した。Chemicsl Abstract に地球化学の寄贈を承認した。

The ACS／CSJ Chemical Congress：1979ご案内

標記会議は，日本化学会と米国化学会との合同年会で，カナダ，オーストラリア・ニュージーランド各化学会が公式参加しております。国内では化学関係学協会会員は自由に参加できるようになっており，プログラムの編成等についても，各学協会の協力で進められております。

年会開催要領は，あらまし次の通りです。

日時：1979年4月1～6日
場所：ホノルルの各ホテル
研究発表：日本語でもよい(要旨，スライドは英語），発表締切は1978年10月10日，日本化学会必着
参加登録：登録料は会員60，同伴者20，学生15各ドル，宿泊料は5～40ドル，渡航費は12万円位の予定。
登録予約：予約ご希望の方は，本人および同伴者1名につき1万円ずつを郵便振替口座東京7－6058日本化学会へお振込み下さい。ニュースレターをお送りするほか，ご希望の航空便とホテルを確保する等の便宜をおはかりします。なおハワイ年会の詳細については，「化学と工業」12月号のハワイ年会便り－2を参照されるか，日本化学会ハワイ年会係（101千代田区神田駿台1－5，電話03－292－6161)神森または松前にお問合わせ下さい。

(出席者，講演題目などの予備登録は本年6月末まで)

予定されている28セッションの中，地球化学に関連のあるセッションは次の2つです。

・地球化学・鉱物化学・宇宙化学部門（日本側コンビーナー　北野　康）
・環境化学部門（日本側コンビーナー　藤永太一郎）

日本化学会では毎年，地球化学・鉱物化学・宇宙化学のセッションが年会でもたれていますが米国化学会には該当する部門がありません。そのために日本側の提案により，次の2つのシンポジウムと一般講演が行われることになりました。一般講演はその内容を日米関係者間で検討中です。環境化学部門では次の7つのシンポジウムの開催が計画されています。

■地球化学・鉱物化学・宇宙化学部門
1．Minor components of sea water and marine sediment（堀部純男）
2．Chemistry related to volcanism（松尾禎士）

■環境化学部門
1．Ultimate disposal of hazardous waters (R.B. Pojasek，宗森　信)
2．Biological effect of environmental pollutant: nitrogen oxides(S.D. Lee，中島泰知)
3．Aerosols and chambers for biological exposure studies(K. Willeke，井伊谷鋼一)
4．Processes of involving contaminations and sediments(R.A. Baker，山県　登)
5．Sampling and analysis of ambient aerosols (G. Gordon，浜口　博)
6．Analysis of polar and high molecular weight materials in water(W.H. Glaze，石渡良志)
7．Trace element analysis in hydrosphere(藤永太一郎，E.D. Goldberg)

◇鳥居鉄也会員，地球化学研究協会学術賞（三宅賞）を受賞

1977年度地球化学研究協会学術賞（三宅賞）は，鳥居鉄也会員「南極地域の地球化学的研究－とくに塩湖の地球化学」に授与された。受賞式は1977年12月9日，霞が関ビル33階東海大学校友会館で行われた。

本会名誉会員　南　英一氏（東京大学名誉教授）は昭和52年9月15日に逝去されました。謹しんで哀悼の意を表します。
本会より生花弔辞を献呈いたしました。また，Geochemical Journal　11巻267～8頁に同氏のありし日の御写真と追悼文を掲載いたしました。
御遺族より本会宛20万円の御寄付をいただきました。紙面をもちまして厚く御礼申し上げます。

1978～79年度会務分担

会　長	半谷高久	副会長	北野　康
庶務担当	石渡良志	会計担当	綿抜邦彦
〃	小椋和子＊	編　集	増田彰正
行　事	松尾禎士	財　政	木越邦彦
ニュース	安藤　厚	将来計画	中井信之
会則検訂		環　境	市川　新
極　地	鳥居鉄也	監　事	鳥居鉄也
1978年会	西村雅吉＊		

追加承認評議員

《新刊紹介》

●微量元素 ― 環境科学特論 ―

山形　登著　産業図書（1977）286頁2,300円

微量元素は従来いくつかの異なる分野のクローズド・サークルの中で研究されてきた。それが「公害」という形で社会にクローズアップされると，各分野にわたる知識を横につなげる必要を生じてきた。山県氏はこの観点より，多年にわたり蓄積した知識と研究成果を駆使し，地球化学，生物地球化学，生態学，疫学，毒物学などの分野で微量元素を取扱う場合の基礎的概念を環境科学特論としてまとめたのがこの本である。ひとつの新らしいふかんとして優れた成著であり，関係研究者の一読をお勧めしたい。（安藤　厚）

●現代鉱床学の基礎

立見辰雄編　　東京大学出版会（1977）

258頁　3,200円

1976年まで東大の鉱床学の講座を担当された立見教授の編集の下に，鉱床学に関連した各分野の専門家17名がそれぞれ得意とする事項について執筆し，全体のとして現在の鉱床学の基礎に横たわる諸問題を解説している。地球化学者の寄稿も多い。鉱床に関係した諸分野の人に鉱床学の直面する諸問題を解説する本として非常に優れた本であり，地球化学者の一読をお勧めしたい(長沢敬之助)。

《学界カレンダー　1978(国内)》

月	期間	学会名	開催地	その他
5	23～25	日本気象学会（春）	東京	
6	12～15	分析化学討論会	北見	
6	27～29	理工学における同位元素発表会	東京	
7	11～13	日本温泉科学会	岐阜県宝村	
7	12～14	日本陸水学会	奈良	
9	30～10／4	日本海洋学会（秋）	札幌	
10	1～3	放射化学討論会	東京	7／16メ切
10	4～7	三鉱学会	広島	6／30メ切
10	5～7	日本地球化学会年会	函館	6／24メ切
10	11～15	日本分析化学会	金沢	6／20メ切
10	15～18	日本化学会38秋季年会	名古屋	6／10メ切
11	14～16	日本気象学会（秋）	仙台	7／20メ切
11	17～19	日本火山学会（秋）	阿蘇	

《学会カレンダー　1978～79(国外)》

8	3～18	ＩＧＣＰ始生界の地球化学　オンタリオ（カナダ）～ミネソタ（米）
8	13～19	国際鉱床連合　ソルトレーク近郊（米）
8	14～18	隕石学会　サドベリー（カナダ）
8	20～25	地質年代学・宇宙年代学・同位体地質学国際会議　スノーマス（米）
9	4～10	国際鉱物学会　ノボシビルスク（ソ連）

編集者　安藤　厚・柴田　賢
発行所　日本地球化学会
〒113 東京都文京区弥生2―4―16
学会センタービル（4F）　日本学会事務センター内
電話　東京 03（815）1903
振込先銀行　三井銀行上野広小路支店
口座番号　9―55247

215-314

日本地球化学会ニュース

No. 84
1978. VIII.10

国立国会図書館
53.-8.17

1978年度　日本地球化学会年会

主催　日本地球化学会
後援　日本化学会
日時　1978年10月5日(木)～10月7日(土)
会場　北海道大学水産学部
　　函館市港町3－1－1
　　(連絡先 0138—41—0131　内線309 西村雅吉)

	会場	9：00	12：00 13：00	17：00 18：00	21：00
5日(木)	A	一般講演	一般講演	特別—5—1	ナイトセッション 特別—5—2 特別—6 (市民会館)
	B	特別—4	特別—4		
	C	特別—1	特別—1		
	D	一般講演	一般講演		
6日(金)	A	特別—5—3	総会	シンポジウム	懇親会 (学部厚生会館)
	B	一般講演			
	C	一般講演			
	D	一般講演			
7日(土)	A	特別—5—4	特別—5—4	一般講演	
	B	特別—2	特別—2	一般講演	
	C	一般講演			
	D	特別—3	一般講演		

シンポジウム　10月6日（金）　14：30〜18：00　大講義室
「地球化学の現状と将来」　コンビナー・松尾禎士

坂野昇平（金沢大理）
(1)　元素の分配則　増田彰正（神戸大理）
(2)　地震予知—再現性のない現象をとらえることと関連して　脇田　宏（東大理）
(3)　実験室と自然界の間—海水を例として　角皆静男（北大水産）
(4)　日本の地球化学への批判と注文　半谷高久（都立大理）
椎川　誠（秋田大教育）
増田彰正（神戸大理）
坂野昇平（金沢大理）
(5)　日本における地球化学の位置　松尾禎士（東工大理）

特別セッション　（テーマとコンビーナー）
1.　堆積物と水溶液間の元素分配　北野　康
2.　環境有機物研究の現状と将来　石渡良志
3.　岩石—鉱物—水相互作用と水素同位体比　日下部実
4.　河川水質の現象解析　市川　新
5.　大気圏．海洋における化学物質のフラックス　半田暢彦　角皆静男
—1　海洋における化学物質のフラックス
—2*　世界における大気圏、海洋の化学研究の動向
—3　大気圏における物質移動
—4　堆積物の初期続成過程と化学成分
6　新しい惑星化学を模索する　小沼直樹
＊ナイトセッション　10月5日(木)　18：00〜21：00　函館市民会館・小会議室(湯の川町1—32—1)
特別—5—2　座長　半田暢彦、和田英太郎
話題提供者　堀部純男　国内における海洋研究計画の最近の動向について
角皆静男　国外における二・三の海洋研究の動向について
特別—6
話題提供者　田中　剛（増田彰正）　スペース・チェンバー構想
小沼直樹　惑星を作るための戦略
総会　10月6日(金)　13：00〜14：20　大講義室　懇親会　10月6日(金)　18：00より学部厚生会館食堂

講演時間：一般講演は討論を含め15分
特別セッションについては〔講演のみ〕、（討論を含む）の時間

A会場
第1日　10月5日(木)
一般講演（9：00〜12：00）　座長　杉浦吉雄

5A01　海水中のアルカリ度の高精度なルーチン分析法
角皆静男、°渡辺康憲、横山　純（北大水産）
5A02　海水中における炭酸の平衡について
°池上　尚、金森　悟（名大水研）
5A03　太平洋西北部および日本海の溶存ガス分布
°蒲生俊敬、堀部純男（東大海洋研）
5A04　シッフ塩基による海水中のホウ素の比色定量
°平木敬三、　森重清利
西川泰治（近畿大理工）
座長　豊田恵聖
5A05　炎光分析法による海水中のLi,Rb の定量とその海洋における分布について
藤永太一郎、桑本　融、°中山英一郎
田中真司　（京大理）
5A06　日本海におけるCo, Ni, Cu

°乗木新一郎、西村雅吉（北大水産）
5A07　南シナ海、および印度洋における銅の分布
西村雅吉、°増田宣泰（北大水産）
5A08　海水中のCu, Cd, Tl, Ba濃度
室住正世、中村精次、水戸部博志
五十嵐龍志　（室蘭工大）
坪田博行（広島大）
座長　桑本　融
5A09　東京湾海水中の銅の分布、その季節変化
°前田　勝、宮原　司、牧嶋正身
高野正徳　（東水大）
5A10　死海の水の化学組成
三宅泰雄（地球化学研究協会）
°鈴木　款、杉村行勇（気象研）
5A11　放射性固体廃棄物の深海投棄に関する試算(2)　°杉浦吉雄（気象研）
三宅泰雄（地球化学研究協会）
猿橋勝子（気象研）

(13：00〜14：00)　座長　杉村行勇
5A12　水圏における ^{228}Ra／^{226}Ra比
（その2）日本海およびフィリピン海
大久保隆（神戸商船大）
°阪上正信（金沢大理）
5A13　海水中の懸濁態マンガン
°中村鉄也、岡部史郎（東海大海洋）
5A14　海水中の微量金属元素の存在状態について、そのI．銅、亜鉛、ニッケル等
°豊田恵聖（東海大海洋）
金森　悟、北野　康（名大水研）
岡部史郎（東海大海洋）
5A15　海水中のクロムの溶存状態
藤永太一郎、°桑本　融、中山英一郎、
鶴房繁和　（京大理）
特別—5—1
(14：10〜17：00)　座長　半田暢彦・南川雅男
5A16　セレンの沈澱機構に関する研究（15分）
°玉暉宗夫、岡田高佳、玉利祐三
平木敬三、西川泰治（近畿大理工）
5A17　東海村沿岸水域における微量元素の分布と挙動（15分）°杉村行勇、鈴木　款（気象研）
三宅泰雄（地球化学研究協会）
5A18　内湾海水からの元素の除去と堆積（15分）
松本英二（地調）
5A19　海洋表層水の ^{234}Th／^{238}U と深層水の ^{210}Pb／^{226}Ra による物質除去過程の考察(20分）角皆静男、°原田　晃(北大水産）
5A20　海洋におけるSEDIMENT　TRAP実験による物質の除去機構（20分）
角皆静男、°植松光夫、田中教幸
原田　晃　（北大水産）
田上英一郎、半田暢彦（名大水研）
5A21　沿岸域のSediment trapに捕集された ^{7}Be、^{210}Pb及びTh同位体（20分）
°田中教幸、原田　晃、角皆静男（北大水産）
5A22　懸濁粒子による有機物の鉛直輸送について（20分）
°半田暢彦、田上英一郎（名大水研）
5A23　セディメントトラップによる自生性有機物の湖底へのフラックスの推定（20分）
°杉浦敏昭、半田暢彦（名大水研）

第2日　10月6日(金)
特別—5—3
（9：00〜12：00）　座長　角皆静男・中谷　周
6A01　大陸起源物質の海洋への輸送（30分）
°角皆静男、品川高儀（北大水産）
6A02　大気圏から日本各地への化学物質の降下量（15分）　°品川高儀、角皆静男(北大水産）
6A03　降水起源の栄養塩および有機物（15分）
°小倉紀雄、五十嵐公文（東京農工大農）
6A04　大気中の硫黄の起源について（15分）
°辻　康、中井信之（名大理）
大原洋治　（和歌山工専）
6A05　安定同位体 ^{13}C、^{18}Oからみた大気中CO_2の挙動（15分）　°蔦木泰宏、木島宣明
酒井　均（岡山大温研）
6A06　昭和基地における降雪の酸素同位体組成について（15分）　加藤喜久雄（名大水研）
6A07　降水・エーロゾル中のセレンおよび微量元素について（15分）
°鈴木　款、杉村行勇（気象研）
三宅泰雄(地球化学研究協会）
6A08　洋上の大気および降水中のPb—210（15分）　°品川高儀、角皆静男(北大水産）
6A09　本州南方海域、東部インド洋、日本海表面海水中のプルトニウム（15分）
阪上正信、°中西　孝、矢島　充
瀬長真知子、竹井美智子（金沢大理）

第3日　10月7日(土)
特別—5—4
（9：00〜12：00）　座長　松本英二・増沢敏行
7A01　沿岸大陸棚域堆積物表層における窒素循環

(30分)　°服部明彦、小池勲夫(東大海洋研)

7 A02　三河湾底泥からの栄養塩類の回帰（15分）
°松永捷司、半田暢彦（名大水研）

7 A03　鹿児島湾奥部海底からの炭酸ガス供給速度
（15分）堀部純男、°蒲生俊敬、馬場祐治
広江伸明、坪田博行（東大海洋研）

7 A04　大阪湾底質コアの化学物質プロファイル
（15分）°立川　涼、脇本忠明、川野公栄
本田克久、伊藤治郎（愛媛大農）

7 A05　本邦太平洋沿岸の海底泥質堆積物の化学組成
（15分）　杉崎隆一（名大理）

7 A06　堆積物中のマンガンの分布とその海洋における地球化学的収支（15分）
°日下部正志、角皆静男（北大水産）

7 A07　日本海深海堆積物の間隙水における３つの型の続成変成について（15分）
増沢敏行（名大水研）

7 A08　深海底土中の重金属の存在状態と移動の可能性について（15分）
角皆静男、°米丸　泉（北大水産）

7 A09　堆積物中の間隙水の化学組成
―日本海盆およびフィリピン海盆―（15分）
°加藤義久、小田秀夫
岡部史郎（東海大海洋）

(13：00～14：00)　　座長　松本英二・増沢敏行

7 A10　ベーリング海堆積物におけるトリウム、ラジウムの分布と過剰なラジウムについて(15分)
角皆静男、°山田正俊（北大水産）

7 A11　深海性マンガニーズノジュールの放射化学的成長速度測定の一考察（15分）
°平良初男（琉球大理工）
瀬長真知子（金沢大理）

7 A12　深海底堆積物の ^{10}Be 年代測定（15分）
井上照夫、°田中重男（東大核研）

7 A13　沿岸堆積物中の金属元素について（15分）
合田四郎、°山崎秀夫
西川泰治（近畿大理工）

一般講演（14：15～17：00）　　座長　鎌田政明

7 A14　濃尾平野地下水中の $SO_4^{=}$ のＳ同位体組成について
°荻田晴久、水谷義彦（名大理）
茶谷邦夫（愛衛研）、桑原　徹（名城大）

7 A15　箱根仙石原湿原の水質
°粟屋　徹、平野富雄、横山尚秀
小沢　清、小鷹滋郎、荻野喜作
大木靖衛（神奈川温研）

7 A16　沖縄南部地区の石灰岩地帯と非石灰岩地帯の水質
°兼島　清、大森　保（琉球大理工）

7 A17　天然水中のカドミウムの分布について
°吉原仁夫、柳　勝美、安部美津子
菅原　健　　（相模中研）

7 A18　降水および相模川水系中の水銀の分布について　　安部美津子（相模中研）

座長　　市川　新

7 A19　河川、湖水中の各態鉄について
°松永勝彦、五十嵐康二
深瀬　茂（北大水産）

7 A20　大沼の科学的研究（１）栄養塩収支と基礎生産　　°松永勝彦、米田義昭
深瀬　茂（北大水産）

7 A21　琵琶湖の無機環境　Ⅰ．水、懸濁物、生物の元素分布
°小山睦夫、松下録治（京大原子炉）
川島宗継、板坂　修、堀　太郎（滋賀大）
高松武次郎（国立公害研）
藤永太一郎（京大理）

7 A22　琵琶湖の無機環境　Ⅱ．堆積物における化学変化と成分の水圏回帰
°小山睦夫、松下録治（京大原子炉）
高松武次郎（国立公害研）
川嶋宗継、板坂　修、堀　太郎（滋賀大）
藤永太一郎（京大理）

Ｂ会場

第１日　10月５日(木)

特別―４

（９：00～10：00）　　座長　　小椋和子

5 B01　河川底質中金属類濃度と微細粒子含有率の関係について（20分）
小川　務（愛知県公害調査センター）

5 B02　Ca-MontmorilloniteによるCu^{2+}、Zn^{2+}、Cd^{2+}の吸着（20分）
°荻原俊夫、小平　潔（足利工大）

5 B03　樹脂を用いた河口水中の溶存重金属類の捕集
(20分)　　伊藤和男（名古屋市公害研）

5 B04　河川水中における有機物の挙動（20分）
°近藤正夫、坂井　勉、山本　甫、高井義治
荒川幸夫　　（愛知県公害調査センター）
荻田晴久（愛知県環境部水質保全課）

(10：10～12：00)　　座長　　安部喜也

5 B05　汚濁物質の発生機構と流下過程に関する研究
(20分)　　市川　新（東大工）

5 B06　南浅川における物質収支―連続観測により推定される人間活動の影響（20分）
°小倉紀雄、北條敏彦（東京農工大農）

5 B07　今市盆地のＢＯＤ収支（20分）
平山光衛（宇都宮大）

(13：00～15：00)　　座長　　小倉紀雄

5 B08　河川の水質解析と水質予測（30分）
°那須義和、橘　治国（北大工）

5 B09　光合成作用による河川の水質変動（20分）
小椋和子（都立大理）

5 B10　大分川水系の水質に及ぼす温・鉱泉水の影響
(20分)　°川野田実夫、志賀史光(大分大教育)
矢野哲郎（渡町台小）

5 B11　玉川毒水の水質挙動とその中和反応効果
(20分)　　後藤達夫（岩手大教育）

5 B12　河川水の流量変動に伴なう化学組成の変化
(20分)　°渡久山　章、野原智子(琉球大化学)

(15：10～17：00)　　座長　　市川　新

5 B13　赤外線熱映像による河川の水質予測(20分)
荒木春視（東洋航空）

5 B14　河川水質（20分）　°平山光衛（宇都宮大）
小沢竹二郎、当麻喜明（埼玉大）

5 B15　河川水質に関する一統計処理（20分）
°糸山東一（香川大教育）、真鍋俊彦(徳島大工)

第２日　　10月６日（金）

一般講演（９：00～12：00）　　座長　　石渡良志

6 B01　海水中の溶存炭水化物について
°平山　宏、平木敬三、西川泰治（近畿大理工）
重松恒信（京大化研）

6 B02　マコモ醗酵物中のP-クマル酸とフェルラ酸の測定　　°片瀬隆雄（神奈川衛生短大）
半谷高久（都立大理）

6 B03　湖底堆積物の形成初期におけるステロール還元反応を規定する環境要因―Ⅰ
°西村弥亜、小山忠四郎（名大水研）

6 B04　湖底堆積物の形成初期におけるステロール還元反応を規定する環境要因―Ⅱ
°西村弥亜、小山忠四郎（名大水研）

座長　　米田義昭

6 B05　堆積物におけるスタノールの起源
°西村弥亜、小山忠四郎（名大水研）

6 B06　保温実験における脂肪酸の安定性について
°松田ひろみ（新日本気象海洋）
小山忠四郎（名大水研）

6 B07　琵琶湖柱状堆積物中の不飽和脂肪酸
°河村公隆、石渡良志（都立大理）

6 B08　堆積物中の不溶性有機物の解析　Ⅰ．フミン酸とケロゲン　　福島和夫（都立大理）

座長　　小山忠四郎

6 B09　堆積高分子有機物(Kerogen)による有機化合物のとりこみ現象について
°山本修一、石渡良志、福島和夫（都立大理）

6 B10　Kerogen中に存在するポリメチレン鎖の起源について
°町原　勉、石渡良志（都立大理）

6 B11　堆積有機物の続成作用のシミレーション、(1)リピッド成分の固化現象の解析
°塩谷　真、石渡良志（都立大理）

第３日　10月７日(土)

特別―２

（９：00～10：15）　　座長　　石渡良志

7 B01　大気中有機成分の分析法の現状と問題点
(25分)　　安部喜也（国立公害研）

7 B02　エーロゾルの多環芳香族化合物の高速液体クロマトグラフィーによる分析（15分）
°佐藤　修、半田暢彦（名大水研）

7 B03　光化学スモッグチャンバーによる大気中有機化合物の反応に関する研究（25分）
秋元　肇（国立公害研）

(10：15～11：20)　　座長　　小椋和子

7 B04　ＧＣ―ＭＳによる水、底質中微量有機物（中性成分）の分析法（25分）
°古賀　実、篠原亮太、貴戸　東、衛藤修一
堀　悌二（北九州環境衛生研）

7 B05　河川水ならびに河川底泥中のＡＢＳ（15分）
°本波裕美、半谷高久（都立大理）

7 B06　汚濁河川水中の有機物の化学的特徴（15分）
°浜名　浩（埼玉工業大）
町原　勉、石渡良志（都立大理）

(11：20～12：00)　　座長　　篠原亮太

7 B07　水環境における多環芳香族炭化水素の挙動
(25分)　　松島　肇（浜松医大衛生）

7 B08　堆積物中の炭化水素、脂肪酸およびフェノールカルボン酸（15分）松本源喜（都立大理）
鳥居鉄也（千葉工大）
半谷高久（都立大理）

(13：00～14：20)　　座長　　半田暢彦

7 B09　環境有機物の地球化学的役割（20分）

石渡良志（都立大理）

7 B10　水中有機物の行動と粘土鉱物との関係(20分)
°小椋和子、三上玲子（都立大理）

7 B11　東シナ海、日本海、オホーツク海海水中の溶存微量元素の化学形について（15分）
°杉村行勇、鈴木　款（気象研）
三宅泰雄（地球化学研究協会）

(14：20〜15：20)　　座長　　半谷高久

7 B12　環境有機物の生態系にはたす役割（25分）
後藤幹保（学習院大理）

7 B13　都市堆積物の有機物組成の特徴と生物試験（15分）
°半谷高久、石渡良志、小椋和子、松本源喜
信楽義夫、宮内慎太郎、朴　吉淳(都立大理)
遠藤立一、佐々木裕子（東京都公害研）
長尾孝一、松崎　理（千葉大医）

一般講演（15：20〜17：00）　　座長　　和田英太郎

7 B14　湖底堆積有機物のメタン醗酵による分解速度の推定
°小山忠四郎、西村弥亜（名大水研）
松田ひろみ（新日本気象海洋）

7 B15　現世堆積物中の有機原物質とガス状炭化水素
°米谷　宏、大場信雄（地　調）

7 B16　アミノ酸のラセミ化による堆積物の年代測定について（II）
°田中信幸、半田暢彦（名大水研）

座長　　立川　涼

7 B17　海底土中のステロールについて
児玉剛則（愛知県公害調査センター）

7 B18　間隙水に含まれるフミン物質に関する研究
°門谷　茂、米田義昭、深瀬　茂（北大水産）

7 B19　オホーツク堆積物における蛋白様物質の続成変化　°米田義昭、門谷　茂（北大水産）
石井次郎（東海大札幌）

C会場

第1日　10月5日(木)

特別―1

(9：00〜12：00)　　座長　　一国雅巳・北野　康

5 C00　本セッションを開くに当って
北野　康（名大水研）

5 C01　aragoniteからcalciteへの変質における微量元素の挙動〔13分〕
北野　康、金森暢子（名大水研）
°吉岡小夜子（愛教大）

5 C02　マグネシウムカルサイトの水溶液中での溶解変質〔13分〕　°大山　茂、北野　康(名大水研)

5 C03　Monohydrocalciteのmagnesian calciteへの転移〔13分〕
北野　康、金森暢子、°新垣　武（名大水研）

5 C04　バテライトからカルサイトへの転移（13分）
°渡久山　章、上原博紀（琉球大化学）

5 C05　炭酸カルシウムの結晶化過程の速度論的研究〔II〕〔13分〕　大森　保（琉球大理工）

5 C06　炭酸カルシウムによるケイ酸の共沈澱(13分)
北野　康（名大水研）
°奥村　稔、井戸垣正俊（鳥根大理）

5 C07　水溶液とあられ石との間のフッ素の分配〔13分〕　一国雅巳（東工大総合理工）

5 C08　カドミウムのリン酸カルシウム―溶液間の分配〔13分〕
北野　康、金森暢子、°藤吉亮子(名大水研)

(13：00〜15：10)　　座長　　赤岩英夫・北野　康

5 C09　サンゴ化石中のアラゴナイト含量と微量元素含量の関係〔13分〕°寺井　稔、(都立大理)
堀　信行（広島大科学)、三国智美（名大理）

5 C10　カルサイトへのCo, Ni, Mn, Zn の分配〔13分〕　赤岩英夫、川本　博、相沢省一
°金子雅保　(群馬大工)

5 C11　葛生地区炭酸塩岩の微量重金属元素含量〔13分〕　赤岩英夫、°相沢省一（群馬大工）

5 C12　貝殻―環境水間の微量元素の分配現象への結晶構造支配則の適用（13分）　°小沼直樹
増田富士雄、横井　弘、平野真孝（筑波大）

5 C13　生物性炭酸カルシウム殻による環境変化の推定〔13分〕
北野　康、°金森　悟、金森暢子（名大水研）
吉岡小夜子（愛教大）

5 C14　海洋性生物が形成するカルシウム質物質中の希土類元素〔13分〕
池内嘉宏、°増田彰正（神戸大理）

(15：10〜17：10)　　座長　　樽谷俊和・北野　康

5 C15　河口域堆積物中の各種鉱物および有機物間への重金属元素の分配　I．分別溶解法の検討〔13分〕　北野　康、°坂田昌弘（名大水研）

5 C16　河口域堆積物中の各種鉱物および有機物間への重金属元素の分配　II．河口域堆積物への分別溶解法の適用〔13分〕
北野　康、°坂田昌弘（名大水研）
松本英二（地調）

5 C17　岩石、海水間のイオン交換量を求める実験〔13分〕
°中谷　周、本居泰治、西村雅吉（北大水産）

5 C18　日本海堆積物の鉱物組成と間隙水中の化学成分の変化について（13分）　°石塚明男
藤岡換太郎、堀部純男（東大海洋研）

5 C19　水酸化アルミニウムに吸着したケイ酸の挙動〔13分〕
中村　修、横山拓史、°樽谷俊和（九大理）

5 C20　水和酸化物と水溶液の相互作用について
アルミニウム水和酸化物とα―Quartz〔13分〕　°忽那一也、金森　悟（名大水研）

第2日　10月6日(金)

一般講演（9：00〜12：00）　　座長　　増田彰正

6 C01　Allende 隕石生成に関する一考察
°海老原　充、赤荻正樹
本田雅健（東大物性研）

6 C02　Allende CAIのCore-Rim構造の鉱物化学
°西田憲正、大塚芳郎、小沼直樹（筑波大）

6 C03　Allende 隕石中のCa同位体組成
°小山康直、本田雅健（東大物性研）

6 C04　隕石中のクロム同位体組成
°鎌田正弘、仁藤　修
本田雅健（東大物性研）

座長　　本田雅健

6 C05　Melrose-b　howardite中の希土類元素
°増田彰正（神戸大理）、田中　剛（地　調）

6 C06　ＲＥＥ及びSm―Nd同位体系より見たNakhlaエイコンドライトの進化について
°中村　昇、増田彰正（神戸大理）D.Unruh
立木光信（U.S.Geological Survey）

6 C07　Moamaエイコンドライトの希土類元素の分化―ＲＥＥ存在度及びSm―Nd年代―
°中村　昇（神戸大理）J.Hamet,D.Unruh
立木光信（U.S.Geological Survey）

座長　　小沼直樹

6 C08　アポロ12、15号月試料のSm―Nd年代
°中村　昇（神戸大理）、　D.Unruh
立木光信（U.S.Geological Survey）

6 C09　鉄隕石中の珪酸塩インクルージョン
°福岡孝昭（学習院大理）
J.L.Gooding（Univ. New Mexico）
R.A.Schmitt（Oregon State Univ.）

6 C10　Chassigny隕石の由来
°福岡孝昭（学習院大理）

第3日　10月7日(土)

一般講演（9：00〜12：00）　　座長　　兼島　清

7 C01　国際深海掘削計画（ＩＰＯＤ）第57節における有機地球化学の船上成果
°佐藤俊二　（石油公団）
奈須紀幸（東大海洋研）
Roland von Huene（米国地調）
他乗船科学者一同

7 C02　ＩＰＯＤ／ＤＳＤＰ第57節コアサンプル中の有機物の続成変化
°佐藤俊二、森島　宏、浅川　忠（石油公団）

7 C03　ニジェールデルタの二、三の坑井における有機物変成と石油生成
°松林英樹、森島　宏（石油開発技術センター）
関口嘉一、平井明夫（帝石技研）

7 C04　北海道産原油の炭化水素組成パターンによる分類と根源岩同定への応用
工藤修治（石油資源開発技研）
°武田信従（石油開発技術センター）

座長　　小沢竹二郎

7 C05　須恵器の地域特性を示す因子
°三辻利一、円尾好宏、西岡淑江
若林郁世　　（奈良教育大）

7 C06　粘板岩中のMn,Ca,Mg,の存在状態とＥＳＲスペクトル　礎部敏幸（九大理）
°稲積章生（香川大教育）樽谷俊和（九大理）

7 C07　昭和基地付近の氷河堆積物の粉末Ｘ線回折像について　村山治太（横浜国大教育）

7 C08　第三系泥質岩中の硫黄の形態
狛　武（地　調）

座長　　西村雅吉

7 C09　岡山県下三大河川（高梁川、旭川、吉井川）の浮遊物中の金属量及び溶存重金属の河川流量及び季節との関連について
°寺岡久之、小林　純（岡山大農業生物研）

7 C10　河川浮遊物に含まれる21種の金属量の研究について（第3報）東南アジア10ケ国における分布
°小林　純、寺岡久之（岡山大農業生物研）

D会場

第1日　10月5日(木)

一般講演（9：00〜12：00）　　座長　　吉田　稔

5 D01　男体山（第四紀火山灰）の化学成分
°斉藤武夫、飯塚俊彦、氏家淳雄

（群馬県衛生公害研）

5 D02　鉄質沈澱物の析出状態
鈴木励子（東北大数養）

5 D03　北海道濁川盆地周辺の温泉について
吉田　裕（日本重化学工業）

5 D04　松代温泉水の起源の推定
鶴見　実（東工大総合理工）
座長　杉崎隆一

5 D05　硫酸水溶液と過剰の火山岩の反応(2)
吉田　稔（東工大理）

5 D06　紀伊半島諸温泉の地下温度
田中　昭、°佐藤幸二（中央温研）

5 D07　島根県東部における温泉の地球化学的研究
°比留川　貴、永田松三、池田喜代治（地調）
座長　柴田　賢

5 D08　流紋岩—海水間熱水反応実験
°白木亮司、酒井　均、木島宣明、田崎和江
（岡山大温研）

5 D09　400℃、1000 atmにおけるSO_4^{2-}—H_2S間の同位体交換平衡定数及び交換速度
°鎌田恵美、酒井　均、木島宣明（岡山大温研）

5 D10　熱水条件下での有機物による硫酸の還元
清棲保弘（名大理）

5 D11　断層空気中のHe／Ar、N_2／Ar比による地震予知　杉崎隆一（名大理）

（13：00〜17：00）　座長　小坂丈予

5 D12　昭和新山噴気孔ガスの同位体組成の経年変化について　水谷義彦（名大理）

5 D13　焼岳噴気孔ガスの同位体および化学組成について　°杉浦　孜（愛知教育大）
水谷義彦（名大理）

5 D14　化学成分変動による熱水量の推定
綿抜邦彦（東大教養）

5 D15　温泉水のリチウム含量に関与する因子(続報)
°高松信樹、今橋正征（東邦大）
神谷　宏（名工大）
座長　綿抜邦彦

5 D16　大分県野矢地区の地球化学的地熱探査
°古賀昭人、野田徹郎（九大温研）

5 D17　秋田県玉川温泉の溶存成分の経年変化（続）
°吉池雄蔵、岩崎岩次、岡村　忍、谷津雅子
（東邦大理）

5 D18　有珠山噴火後の水試料にみられる地球化学的特徴について　その1．主として化学組成について　安孫子　勤（室蘭工大）
鈴木紀夫、千葉　伝、野口浩一、吉田向弘
渡辺修一（東工大理）、日下部　実（富山大理）、佐竹　洋（防災センター）、安孫子　勤（室蘭工大）、野津憲治（筑波大化学）
小坂丈予、平林順一（東工大工）、林　保（上智大理工）、小沢竹二郎（埼玉大工）

5 D19　有珠山噴火後の水試料にみられる地球化学的特徴について（その2）主として同位体組成について　松尾禎士、牛木久雄
°大隅多加志、垣内正久、形山賢二、北　逸郎
座長　古賀昭人

5 D20　有珠山周辺のH_2を含む soil gas
°野津憲治（筑波大）、脇田　宏（東大理）
藤井直之（神戸大）、島村英紀（北大）

5 D21　栗駒広域地熱地域における温泉の帯状分布（その1．主要・微量溶存組成）
°阿部喜久男、茂野　博、安藤直行
池田喜代治、後藤隼次（地　調）

5 D22　栗駒広域地熱地域における温泉の帯状分布（その2．水の水素・酸素同位体組成）
°茂野　博、阿部喜久男、安藤直行
池田喜代治、後藤隼次（地　調）
座長　水谷義彦

5 D23　鹿児島湾北部海域における潜水調査と海底噴気ガスの成分　°小沢竹二郎
君島克憲（埼玉大工）、大西富雄（鹿児島大教養）、　小坂丈予、平林順一（東工大工）

5 D24　潜水調査により採取された北部鹿児島湾水域における海水の成分異常
°鎌田政明、坂本隼雄（鹿児島大理）

5 D25　鹿児島湾北部海底の噴気孔付近で採取された底土と海底活動の環境に及ぼす影響について
°小坂丈予、平林順一、（東工大工）
鎌田政明、坂元隼雄（鹿児島大理）
小沢竹二郎（埼玉大工）

第2日目　10月6日(金)

一般講演（9：00〜12：00）　座長　脇田　宏

6 D01　地熱温泉地帯の土壌中の水銀及びヒ素の分布について（トムラウシ鹿の沢温泉地区）
松浪文博（道立地下資源調査所）

6 D02　山崎断層・塩田温泉の塩素濃度と地震現象との関連　吉岡龍馬（京大防災研）

6 D03　断層周辺の土壌ガス組成について—伊豆半島域—
°永田松三、加藤　完、伊藤吉助（地　調）

6 D04　断層周辺の土壌ガス中のラドン—伊豆半島地域—
°池田喜代治、永田松三、加藤　完　（地調）
座長　野津憲治

6 D05　地球化学的地震予知研究（3）ラドンの気出効果　°脇田　宏（東大理）
野口正安（日本分析センター）

6 D06　CNトラック法、オープンバイアル法による土中ラドンの定量と断層との関係について
°飯島南海夫（信州大教）
堀内公子、村上悠紀雄（都立大理）

6 D07　北海道の河川底質・土壌における地球化学的研究　第1報　おもに金属鉱山周辺の河川底質についての地質学的考察
°藤田隆男、安藤和夫（道公害研）
座長　鈴置哲朗

6 D08　土壌中の窒素同位体組成
°和田英太郎、柴田励子（三菱化成生命科研）

6 D09　窒素固定過程にともなう同位体効果とその生態系における意味
°南川雅男、和田英太郎、(三菱化成生命科研)

6 D10　硬石膏—水系における酸素同位体分別係数の温度依存性（続報）
°千葉　仁（東工大理）、日下部　実(富山大理)

6 D11　常温付近における水の気液二相間の同位体分配（続報）
°垣内正久、松尾禎士（東工大理）

第3日　10月7日(土)

特別—3

（9：00〜10：25）　座長　日下部実

7 D01　含水珪酸塩と水との間のD／H分配に関する実験的研究（30分）　鈴置哲朗（気象庁）

7 D02　Brucite—水間の水素同位体分配比の温度依存性（15分）　°佐竹　洋（防災センター）
松尾禎士（東工大理）

7 D03　Albite melt—水間の水素同位体分配比について（20分）　°佐竹　洋（防災センター）
平野真一（名大人工結晶研）、松尾禎士(東工大理)、宗宮重行（東工大工材研）

7 D04　ペリドータイト—海水反応の重水素および各種元素の挙動に関する実験的研究（20分）
°堤　真、酒井　均、木島宣明(岡山大温研)

（10：25〜12：00）　座長　水谷義彦

7 D05　地熱地帯に産する粘土鉱物の重水素濃度について（20分）
°丸茂克美（名大理）、長沢敬之助（静岡大理）

7 D06　岩石の水素及び酸素同位体比に記録された熱水作用（20分）　松久幸敬（地　調）

7 D07　岩石学におけるD／H分配に関する問題(20分)
°黒田吉益（信州大）、鈴置哲朗(気象庁)
松尾禎士(東工大理)

一般講演（13：00〜17：00）　座長　松尾禎士

7 D08　地球化学的試料の絶対放射化分析法
°小山睦夫、松下録治（京大原子炉）

7 D09　火山フロント沿いに見たTh系、U系放射能とK濃度
佐藤和郎（東大震研）、°佐藤　純（明大工）

7 D10　本邦花崗岩類のRb—Sr全岩年代とK—Ar鉱物年代との関係
°柴田　賢、石原舜三（地　調）

7 D11　カーボナタイト中の希土類元素
°大出　茂、北野　康（名大水研）
諏訪兼位（名大理）
座長　阪上正信

7 D12　IPOD—DSDP　Leg51（バーミューダ海膨）の火山岩の希土類元素の精密定量—希土類元素の固体型パターンの表示方法について
°清水　洋、増田彰正（神戸大理）

7 D13　Diopside-Silicate melt間の希土類元素の常圧での分配実験　°寺門靖高、早瀬一一(京大理)
増田彰正（神戸大理）

7 D14　北海道第四紀火山岩中の希土類元素
°藤谷達也、増田彰正（神戸大理）
勝井義雄（北大理）

7 D15　石英の格子振動とその酸素同位体分配関数比について　川辺岩夫（名大理）
座長　赤岩英夫

7 D16　鉱物中の陽イオン拡散係数の測定
°森岡正名（東大RIセンター）
長沢　宏（学習院大理）

7 D17　火山性層状硫化物鉱床の鉛の起源について
°佐藤和郎（東大震研）、佐々木　昭(地調)

7 D18　黒鉱鉱床生成期の環境進化史的背景
梶原良道（筑波大地球化学系）
座長　鳥居鉄也

7 D19　始生代の海の化学像
°梶原良道（筑波大地球化学系）
佐々木　昭（地　調）

7 D20　南極ドライバレーのEvaporiteの産状と同位体組成による古環境の推定
°中井信之、和田秀樹（名大理）
西山　孝（京大工）

7 D21　ケイ質堆積物中の水
°野口浩一、大隈多加志、松尾禎士(東工大理)

The ACS／CSJ Chemical Congress:1979ご案内

日本化学会から上記会議についての詳細な内容がとどきましたのでその要点を以下に掲載します。

1. 申込用紙の請求

用紙には、研究発表申込用紙と参加登録・団体旅行申込用紙の２種類があります。必要な申込用紙の種類および同伴者数を明記し、Ａ４判（21×30㎝）の用紙が入る返信用封筒（ご自分の住所、氏名、郵便番号を書き、200円切手を貼ったもの)を同封して、日本化学会事務所（〒101 千代田区神田駿河台1―５）ハワイ年会係（03―292―6161、担当者　松前）まで申込用紙をご請求下さい。

2.2. 研究発表の申込み

(1) 一般研究発表とシンポジウム講演の２種類があります。申込みは、いずれか１人１件に限ります。

(2) 一般研究発表の内容は未発表のもので、講演時間は20分以内となる予定です。

(3) シンポジウムの応募講演の内容は、既発表のものを含んでもよいが、発表しようとするシンポジウムの主題に適合することが必要です。

(4) 発表は日本語でもよく、講演に際して複数の座長が討論のお世話をしますので、国内の研究発表と同様にお考え下さい。ただし、アブストラクト（予稿集原稿）およびスライドは英文に限ります。

(5) 研究発表の申込締切は、昭和53年10月９日(月)午後５時（上記ハワイ年会係に必着）を厳守いたします。

3. 参加登録・団体旅行の申込み

(1) 参加登録料は、次表の通りです。昭和54年２月15日までに受付けたものはアメリカに送金し事前処理をしますが、２月15日以後に受付けたものは現地に持参し年会本部（シェラトン・ワイキキホテル内）で処理します。現地の事務処理は、時間がかかる定評がありますので、２月15日までに参加登録を済されるよう強くおすすめします。

参加者の種別	２月15日まで	２月16日以後
日本化学会およびこの会議開催に協力中の学協会の会員	60米ドル	85米ドル
上記学協会所属学生会員	15米ドル	20米ドル
上記会員でない学会参加者	85米ドル	110米ドル
上記３種の参加者の同伴者	20米ドル	25米ドル

(2) 年会参加のための団体旅行は、５泊７日の標準日程で次の運行計画と団体料金で、申込みの受付けをいたします。申込締切は昭和53年12月末日といたします。

〔運行予定計画〕

Ａ：３月31日東京または大阪発、同日ホノルル着
　４月５日ホノルル発、４月６日東京または大阪着

Ｂ：４月１日東京または大阪発、同日ホノルル着
　4月6日ホノルル発、4月7日東京または大阪着

Ｃ：４月２日東京または大阪発、同日ホノルル着
　4月7日ホノルル発、4月8日東京または大阪着

《５泊７日の団体料金（航空運賃＋宿泊料）見込額》

ホテル・ランク	東京発料金（円)	大阪発料金（円)
D(デラックス)	145,000～165,000	150,000～170,000
F(ファースト)	135,000	145,000
S(スタンダード)	130,000	140,000
E(エコノミー)	125,000	135,000

編集者　安藤　厚・柴田　賢
発行所　日本地球化学会
〒113 東京都文京区弥生２―４―16
学会センタービル（４Ｆ）　日本学会事務センター内
電話　東京 03（815）１９０３
振込先銀行―三井銀行上野広小路支店
―口座番号―9―55247―